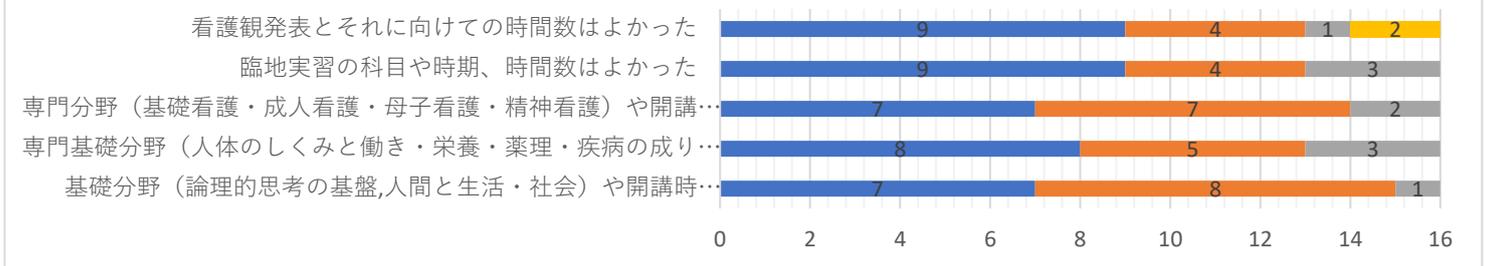


児湯准看護学校 カリキュラムの満足度アンケート（対象：2年生） 集計結果（実施日：令和8年1月）

1.あなたは、本校の授業や実習の科目、時期、時間数についてどの程度満足していますか。

項目	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない
1 基礎分野（論理的思考の基盤,人間と生活・社会）や開講時期、時間数はよかった	7	8	1	0	0
2 専門基礎分野（人体のしくみと働き・栄養・薬理・疾病の成り立ち・保健医療・看護と法律）や開講時期、時間数はよかった	8	5	3	0	0
3 専門分野（基礎看護・成人看護・母子看護・精神看護）や開講時期、時間数はよかった	7	7	2	0	0
4 臨地実習の科目や時期、時間数はよかった	9	4	3	0	0
5 看護観発表とそれに向けての時間数はよかった	9	4	1	2	0

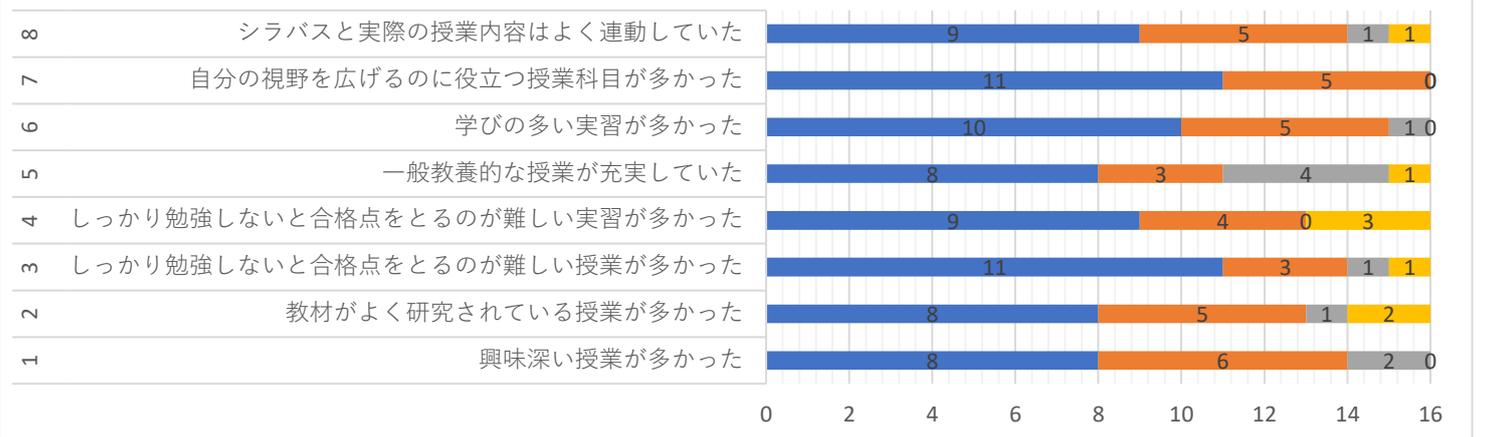
■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらともいえない ■ あまりそう思わない ■ そう思わない



2. あなたは、本校の授業や実習の内容についてどの程度満足していますか。

項目	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない
1 興味深い授業が多かった	8	6	2	0	0
2 教材がよく研究されている授業が多かった	8	5	1	2	0
3 しっかり勉強しないと合格点をとるのが難しい授業が多かった	11	3	1	1	0
4 しっかり勉強しないと合格点をとるのが難しい実習が多かった	9	4	0	3	0
5 一般教養的な授業が充実していた	8	3	4	1	0
6 学びの多い実習が多かった	10	5	1	0	0
7 自分の視野を広げるのに役立つ授業科目が多かった	11	5	0	0	0
8 シラバスと実際の授業内容はよく連動していた	9	5	1	1	0

■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらともいえない ■ あまりそう思わない ■ そう思わない



1. カリキュラムの「構成（時期・時間数）」への評価

授業の科目や時期、時間数については、ほとんどの項目で「そう思う」「ややそう思う」が大多数を占めている。

臨地実習と看護観発表への高評価:「臨地実習の時期・時間数」および「看護観発表に向けた時間数」において、最も強い肯定（そう思う）が9名と多く、実習教育のスケジュールが適切に組み立てられていることが伺える。

バランスの良さ:基礎分野から専門分野まで、否定的な意見（あまりそう思わない・そう思わない）がほぼゼロであり、学習のステップアップがスムーズに感じられていることがわかる。

2. カリキュラムの「内容」への評価

基礎分野の満足度:「基礎分野（論理的思考など）」については、16名中15名が肯定的で、看護の土台となる知識がしっかり身についている実感があることがわかる。

看護観発表の意義:「看護観発表」は、時期や時間数だけでなく、その「内容」についても高い満足度を得ており、学生にとって自己の看護観を振り返る重要な機会になっていることが分かる。

3. 注目すべきポイント（改善や検討の余地）

専門基礎分野（人体のしくみ・薬理など）:「どちらともいえない」が3名おり、他の項目に比べてわずかに迷いが見られる。人体の構造や薬理などは難易度が高いため、授業スピードや理解度において、一部の学生がフォローを必要としている可能性がある。

看護観発表の時間確保:「時間数はよかった」という問いに対し、2名が「あまりそう思わない」と回答している。発表準備には個人差が出るため、一部の学生にとっては時間がタイトに感じられたことがわかる。

次年度に向けた具体的な改善案

1. 専門基礎分野の学習支援の強化

「人体のしくみ・薬理」などの専門基礎分野において、3名の学生が「どちらともいえない」と回答している。これらは後の実習や資格試験の土台となるため、理解度の底上げが必要である。

改善案:

ICT教材や動画の活用:難解な解剖生理や薬理作用を視覚的に理解できる補助教材を導入する。

ミニテストの実施とフィードバック:定期的な小テストを行い、躓いている学生を早期に発見し、補講や個別指導を行う。

「看護への繋がり」の強調:単なる暗記ではなく、その知識がどう看護技術や実習に結びつくのかを具体例（事例検討）を交えて講義する。

2. 「看護観発表」に向けたスケジュールと時間の最適化

唯一「あまりそう思わない」という否定的な回答が2名出た項目である。発表準備の負担が一部の学生に偏っている、あるいは時期的な余裕がないことが推測される。

改善案:

準備プロセスの早期着手:実習終了後から一気に準備するのではなく、各実習の振り返りの段階で「看護観の断片」を言語化させる指導を導入する。

個別指導枠の確保:構成に悩む時間を減らすため、教員による個別相談（メンター制）の時間をあらかじめカリキュラム内に組み込む。

ワークフローの提示: 発表資料作成のモデルケースやテンプレートを事前に提示し、作業効率を向上させる。

3. 「理論」と「実習」の連動性の向上

「臨地実習の時期・時間数」において、肯定派が多い一方で「どちらともいえない」層も一定数存在する。これは、講義で学んだことと実習時期のズレ、あるいは実習中の指導密度に対する不安の表れの可能性が考えられる。

改善案:

プレ実習演習の充実: 実習直前に、特定の診療科に合わせた技術演習や事前学習の時間をより手厚く配置する。

実習施設との密な情報共有: 学校での学習進捗を実習先指導者とより深く共有し、学生が現場で「習ったことと違う」という混乱を起こさないよう調整を強化する。

